



森の息吹

No.173 11月号
2020.10月26日発行
編集代表：五賀利雄
0133-26-3738

チェーンソー研修会・和みの森での間伐作業

10月の活動報告

9月27日(日) キノコの観察会 150年の森 参加者 11名
山田山林での作業はなく、150年の森にてキノコの観察会を行いました。季節的には少し早かったようですがそれでも、ボリボリやラクヨウなど探し当てる人もおり半日を楽しみました。



10月4日(日) 「協働の森」チェーンソー研修会 場所 22世紀の森 参加者 12名



講師に増田氏を招きチェーンソーの操作と作業安全に関する研修を行いました。基本的な注意事項の説明の後実際に小径木の伐倒実習も行いました。最初は講師が、伐倒方向の確認、ハンドルの握り方や受け口と追い口の切込み具合の位置などなど実技場面で説明を行い続いて山崎氏が伐倒作業を行いました。伐倒が終わった後、伐根を観察し特に「つる」の部分が正しく蝶番の役割を



果たしているかチェックを行いました。良くわかる実習でありました。



その後、チェーンソーの点検整備について学びました。以下、抜粋。

- 1、ガイドバーは上下が同じであるので点検ごとに上下を反転して使う。
- 1、エアクリーナーの掃除は小まめに行う。
- 1、エンジンの停止はスターターロープを引きながら行うと良い。
- 1、スプロケットドラム周辺の汚れは歯ブラシを使うと良い。などなど。



10月18日(日)第58回全国植樹祭(2007年、苫小牧)で造成された「和みの森」で除伐作業

参加者「シラカンバ」8名・「22世紀の森の会」3名の、合計11名
除伐の対象区域は植栽後13年目ミズナラ林で、「一残・一伐」の列状伐採が基本ということでした。林内を見たところ、将来性のある「優良木」が全体に点在していることから伐採対象植列内でも将来性のある木は残しその分の伐採を残存予定の植列内の不良木を伐採して補うようにして全体の1/2にあたるミズナラを伐採しました。

日ざしがあたたか日でした。事故もなく、作業も予定よりも少々早く終了しキノコのおみやげを手にした人もあったとか…。



蔵王山(1841m)

樹氷で有名な山で昭和の高度経済成長期にはスキー客でにぎわったので、標高はそれほど高くはないが知名度の高い山と言える。「みちのくをふたわけざまに聳えたつ蔵王の山は……」と斎藤茂吉が詠んだように山形県と宮城県の県境となっている。

大雪山と同じように「蔵王山」という山頂はない。主峰「熊野岳」と「地蔵岳」「不忘山」などの山群を総称して「蔵王山」と呼ばれている。

活火山であり、観光名所としての『お釜』、温泉がある。古くは温泉地として知られていたが昭和30年ごろからスキーブームにのり開発が進み、山全体がスキー場のような景観となっている。『エコーライン』のような観光道路

ゴンドラ・リフトなどがつくられ、スキー客にとっては魅力的な山ではあるが、登山客にとっては残念な山と思う。

最初に登ったのは、昭和36年4月スキーの営業は終わり静かになった時期で、大学山岳部の新人歓迎登山であった。止まっているリフトの下の残雪を硬貨やサングラスなどを拾いながら歩いたことを覚えている。以来4年間スキーの練習、スキー授業、卒業論文の調査ヒュッテのアルバイトなど数えきれないほど世話になった。「地蔵岳」頂上直下に石の地蔵があるが、そこから100メートルほど下った樹林の中に山岳部OB会(コーボルト会)所有の『コーボルトヒュッテ』があり、卒業後も度々利用している。

因みに新婚旅行にも訪れた。今後も機会があれば訪れたいと思っている。



樹氷原のコーボルトヒュッテ
S53年2月16日

11月1日(日)

内容 「協働の森」 意見交換会

今年度の活動の総括と今後の活動内容の検討

集合場所 「西当別コミュニケーションセンター」 現地集合です。

時間 13:30より2時間程度を予定

住所 当別町太美22番地7 電話 0133-26-3300

※コロナウイルス対策としてマスクの着用、ソーシャルディスタンスを！！

11月8日(日)

内容 備品の整備・チェック・機械のメンテナンス 午前中で終了

集合場所と時間 山田氏倉庫に10:00

11月の活動案内



編集後記

今年の野外作業は無事怪我無く、事故なく、終了しました。安全第一です。無理は禁物です。

近くの農地にオオハクチョウが飛来しています。

シベリアから越冬におそらく内地に向かう途中なのでしょうか。

ところで、シラカンバに3名の会員が新たに加わりました。

心強いことです。これからも、宜しくお願いします。

更新した会員名簿を同封いたします。

